

世田谷村日記

石山修武

七月十六日

午前中世田谷村で休む。カバーコラム一本書く。今日は夕方、学士会館で松村秀一氏の建築学会賞受賞の祝いの会がある。

午後大学、雑用。十六時過発、地下鉄で竹橋へ。十七時学士会館、松村秀一先生の建築学会賞受賞祝賀会出席。お祝いの言葉を申し上げる。中国のプロジェクトへの協力を松村先生に依頼する。当然の事ながら沢山な人がみえていた。野辺公一、高島直之にも久し振りに会った。内田祥哉先生にもお目にかかった。会終了後、会館内のBarで内田先生を囲み談笑。難波先生も参加。二十一時半過了。地下鉄で帰る。二十二時半頃世田谷村に戻る。二十一日に東大、技術と歴史研究会で藤森照信のレクチャーがあるそうだ。

七月十七日 日曜日

昨夜、内田祥哉先生とお話しして興味深かったのは、内田先生がエストベリの建築への関心を話された事であった。ストックホルム市庁舎の中庭で、初訪欧の今井兼次先生に会われた話には驚かされた。エストベリのようなリーディング・アーキテクトが何故、あの様な歴史主義的スタイルを選択したのかが重要なことだとも。

モスタルの橋が世界遺産になった事が報じられている。ボスニア・ヘルツェゴビナの内戦で破壊された後に、ユネスコや各国の支援で、16世紀のオスマン・トルコの建築家が建造した石橋「ス

タリ・モスト」が今の技術をもって復元され、それが世界遺産になったという。技術と歴史研究会はこういう事をやらなきゃいけないのではないかと期待したい。